

第19回「下地島空港活性化協議会」を開催しました

～ 羽田発着枠政策コンテスト発着枠の配分継続が決定、官民一体となった利用促進・受皿強化を目指します～

下地島空港活性化協議会(会長:嘉数登)^(※1)は2月26日(水)に第19回「下地島空港活性化協議会」^(※2)を開催しましたので、お知らせします。

【第19回 下地島空港活性化協議会】における主な報告・協議事項】**① 下地島空港の現況**

- ・ 2024年度の利用者数は過去最高だった昨年度の42.4万人を上回る見込み。
- ・ 2025年夏期スケジュールは「香港エクスプレスの香港線が6月27日より運航再開決定(週4往復)」、「ジンエアーのソウル線が引き続き運航決定(週5往復)」、「スカイマークの福岡直行便運航期間が2か月から約3.5か月と大幅拡大(6月20日～9月30日の間、1日1往復)」。
- ・ 更なる就航・増便リクエストがある中、空港の受入体制に関する課題解決に向けて関係者間で協議。

② 羽田発着枠政策コンテスト関連

- ・ スカイマークの羽田＝宮古(下地島)線について、2025年3月30日から2029年3月24日までの羽田発着枠の配分継続が決定。同路線の更なる利用促進に向け、各種施策の推進の強化。
- ・ 2025年度以降の協議内容について、本協議会をより観光振興に資する議論が出来る場とするべく協議内容の変更を行うことを確認。

(※1) 本協議会は、宮古諸島の受入環境整備や下地島空港の航空路線プロモーションなど、下地島空港活性化に資する各種事業の立案並びに実施することを目的として、2020年8月に宮古島市、沖縄県、(一社)宮古島観光協会、宮古島商工会議所、下地島エアポートマネジメント株式会社にて立ち上げた組織です。宮古島市長が本協議会の会長を務めておりますが、2025年1月に市長が交代したことに伴い、本協議会の会長も同時に交代となっております。

(※2) 本協議会でのより活発な議論を目的として2024年度から開催方式を年4回の本会から年2回を本会、年2回を分科会に変更し第17回・18回は担当者会として開催しております。

第19回協議会の冒頭、会長を務める宮古島市の嘉数登市長より以下の通り挨拶がありました。

「今年3月末迄であった羽田発着枠政策コンテストの羽田空港発着枠配分期間について、2029年3月末迄延長されることが発表された。配分期間延長については官民一体となって地域と路線を盛り上げていることをコンテストの委員の方々に高く評価いただいた結果と感じている。また2025年度は福岡線の運航期間拡大や香港線の6月27日からの運航再開といった嬉しいニュースもある。引き続き官民一体となって下地島空港の利用促進や宮古島の観光振興に取り組んでいきたい。」

その後、下地島エアポートマネジメント株式会社より「下地島空港の状況」について報告がありました。

(内容) 2025年夏期スケジュールの運航状況、利用者数推移、各路線の状況、航空貨物取扱状況、利用促進に向けた取り組み、就航・増便に対する空港受入体制の課題

続いて、協議会メンバーにて以下に関する意見交換が行われました。

- ・ 下地島空港の活性化に向けた航空路線の維持・拡大に関する施策についての意見交換。
- ・ 空港利用者アンケートを通じた国内・海外旅客の島内滞在に関する最新動向。
- ・ 今年度のプロモーション活動計画や閑散期対策として実施中の島内ホテルと連携した相互送客施策、スポーツ団体の誘致実績の確認。
- ・ 2025年度以降の下地島空港活性化協議会の協議内容についての提案。

本協議会は、今後も官民一体となって下地島空港活性化に向けた施策を立案・推進し、宮古諸島のさらなる活性化を目指します。



■ 第19回「下地島空港活性化協議会」概要

日時： 2025年2月26日(水)14:00～15:30

場所： 宮古島市保健センター多目的室

出席者： 「下地島空港活性化協議会」会員

嘉数 登 宮古島市長(協議会会長)

川上 睦子 沖縄県宮古事務所 所長(協議会事務局)

根路銘 康文 宮古島商工会議所 会頭

平山 茂治 (一社)宮古島観光協会 専務理事

鶴見 弘一 下地島エアポートマネジメント株式会社 代表取締役社長